

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2024.05.No321

5月号

## 目次

全国青年委員長会議『備える』	1
特集	2
・令和5年度北海道赤レンガ建築賞	
・令和5年度北海道赤レンガ建築奨励賞	
女性の窓	6
[No.113 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
Coffee Break	7
information	8
URL <a href="https://www.h-ab.com/">https://www.h-ab.com/</a>	

## 全国青年委員長会議『備える』

青年委員会 委員長 吉田 徹 (札幌支部)



令和6年3月16日・17日の二日間で令和5年度全国青年委員長会議が宮城県で開催されました。

今年のテーマは『備える』～災害を知り、復興を感じ、できる事を考える。～

今年1月1日の能登半島地震をはじめ、ここ数年発生確率が上がっている大規模な地震、また、世界的な異常気象による強風、豪雨など未曾有の災害が懸念されている中、我々建築士を初めてとする技術者が予期せぬ事態に対して迅速、的確な対応をするため「備える」について考える時間として開催されました。

本年度の委員長会議は一日目と二日目それぞれ違う趣向で開催され、一日目は、忘れもしない2011年3月11日、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県女川町です。そこで、「復興」という「ゼロからのまちづくり」について女川町総務課公民連携室室長の青山様より女川町の震災当時から現在までの復興まちづくりについて講演していただき、街歩きをいたしました。



旧女川交番 (東日本大震災遺構)

女川町は震災当時6511棟あった建物の内、全壊・流出4316棟、その他の被害1241棟が被災し被災率85.4%にも及ぶ東日本大震災の最大の被害率の自治

体です。震災直後からの民間主導の公民連携の復興まちづくりのお話を伺って強い感銘を受けました。このまちづくりの手法は、能登半島の復興においてもモデルケースとされているようです。震災発生後、わずか1カ月で街に住む住民による民間任意団体『女川町復興連絡会』が発足され復旧・復興が始まりました。当時の商工会の会長の挨拶に様々な「まちづくり」に通ずるものを感じました。『この町の復興には10年も20年かかる。だから計画・企画・活動の中心は10年・20年後の責任世代である今の30代から40代の若者に託す。託すからには「還暦以上口を出すな」のまちづくりで進めたい。還暦以上のものは若者世代の後方支援に尽力する』と語ったそうです。そこから若手中心で「行政」「議会」「町民」「産業界」の四輪駆動で進め、今後の人口減少の事も踏まえ、持続可能な地域経済の実現の為に「身の丈に合ったまちづくり」をキーワードに現在の女川町が出来上がったそうです。どんな物事にも終わりのあるもの、終わりのないものがあり、まちづくりに関しては終わりのないことで自分の子供、孫に何を残していくのかを考え続ける、そのことを実感いたしました。

二日目は、せんだいメディアテークにて我々青年層の第一線で活躍している方々を講師として招き「木造・木質化」について事例を交えた講演とクロストークを行いました。(株)はりゅうウッドスタジオ 滑田様・(有)艸建築工房 横島様・(公社)日本建築連合会 青年委員長 山本様の3名のお話をお伺いし、木材を使用することへの意義、必要性について共感をいたしました。多く山林を持つ日本、近年安い外国の材料で日本の林業が衰退し、山から海への循環が失われた地域の復活するため、地場の木材の利用促進するための手段の一つとして、小規模な建物はもちろん中規模以上の建物の木質化への必然性を強く感じました。

# 令和5年度 北海道赤レンガ建築賞

## 安平町立 早来学園

■建築主 安平町  
 ■設計者 (株)アトリエブク (株)教育環境研究所  
 (株)山脇克彦建築構造設計 (株)キタバ・ランドスケープ  
 (有)設計事務所ゴンドラ KD チームラボ(株)  
 ■施工者 (建築主体) 丸彦渡辺・森本経常建設共同企業体  
 (電気設備) 錦戸・大西経常建設共同企業体  
 (機械設備) 池田・廣和経常建設共同企業体

■建築物の概要  
 所在地 勇払郡安平町早来大町169番地1  
 主要用途 義務教育学校  
 構造及び階数 RC造一部木造 鉄骨造2階建  
 建築面積 5,777.06㎡  
 延べ面積 7,092.67㎡  
 竣工年月日 令和4年11月2日



撮影:佐々木 育弥 (Ikuya SASAKI)

### □企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

早来学園は平成30年の北海道胆振東部地震で被害を受けた早来中学校の再建計画としてスタートし、早来中、早来小、安平小、遠浅小を統合して開校した小中一貫の義務教育学校です。再建にあたっては町民参画ワークショップ「新しい学校を考える会」を14回、建設工事開始後は「新しい学校をつくる会」に名称を変え15回開催し、子どもたち・保護者・住民・行政が一体となり、学校建設を進めました。ワークショップを通じ作られた学校のコンセプト「みんなの学校—自分が世界と出会う場所」は、計画や設計に活かされただけでなく、子どもたちが書いた文字をサインのフォントとして使うことや学校の特色である丘の名称を決めるなど具体的、主体的な形で反映されています。

### □設計の特徴

敷地にある丘を生かすため教室群を丘に沿って配置し、ハイサイドライトを配した吹抜空間「光のプロムナード」で学年のまとまりを作りながら各教室を結んでいます。教室の広さを通常の1.5倍以上とし、スパンはRC造に適した8.1m×7.2mとしています。そのため教室の中に柱があり、この柱が一つの大きな教室の中に複数の領域を作っています。各教室は「光のプロムナード」で結ぶだけでなく、教室間を直接つなぐ出入口を設け、多様な学びの形に対応しています。また常時住民に開放される図書室を取り囲むように大中アリーナ・キッチンスタジオ・アトリエ・会議室を配置し、住民と共用を可能にしています。開放エリアの図書室、共用エリアのキッチンスタジオ・アトリエ、学校専用エリアの「光のプロムナード」・教室は互いに見通すことができる「三層構成」としています。ハイサイドライトからの光と大中小のボリュームが変化をもたらす「光のプロムナード」、子ども、大人互いの活動の様子がわかる「三層構成」によって、多世代が共創する「学びのまち」を作っています。

### □施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

9年間の長い学校生活に変化をもたらすために外周部2階上部の梁までをRC造とし、その上に木造、鉄骨トラス、鉄骨ラーメン、RC造の屋根をかけた多様な構造であること、丘を活かすためにカーブがあることが特徴となっています。これら難易度の高い形を工期遵守しながら建設するため、6工区に分けて工事を進める必要がありました。そのため特に下部構造のRC躯体精度を確保することに注力しました。RCの肌合いを活かす内装、多彩な色彩、家具などは見本・現物作成を行い決定しました。

### □完成後の地域への貢献度等

学校の中心にある図書室は朝9:00から夜9:00まで常時住民に開放され、一部エリアは飲食可能として運営されています。図書室としての利用だけでなく、憩いの場として、仕事の間として気軽に住民たちが利用しています。また共用エリアは施設予約サイト「ABIRA SHARE」から予約可能です。電気錠・顔認証を利用することで先生たちの負担なくセキュリティを確保しながら、学校が授業中でも空いていれば誰もが使うことができる、年代を超えて開かれた「みんなの学校」となっています。



## □受賞のことは

### 建築主 安平町 町長 及川 秀一郎

早来学園は被災した学校を早期に再建させることを目的として始めた事業ですが、学習の場としての充実を図り未来の学習環境として100年経っても使っていただける学校施設にしたいという思いで設計をしていただきました。

単なる復旧ではなく、地域とともに歩み、新たな活動もできる社会教育の機能を加え、町の課題を希望に変えるシンボリックな施設としての期待を託しました。

児童生徒の学びを充実させるための、設備や備品にも多くのこだわりを求めつつ、予算上の制約をかけ、短期間で進めた厳しい事業でしたが、自然環境と調和させ、美しい景観や創造性の高い優れた建築物として仕上げていただきました。これもひとえに地域の方々の意見や発想に耳を傾け、設計に反映していただいた(株)アトリエブंक並びに(株)教育環境研究所、チームラボ(株)、及び形として実現していただいた丸彦渡辺・森本経常建設共同企業体のおかげであり、「北海道赤レンガ建築賞」に値するものとして評価していただきましたことに心より感謝申し上げます。

### 設計者 代表者 (株)アトリエブंक 菊池 規雄

この度は光栄な賞をいただき、関係者の皆様に関心から感謝申し上げます。早来学園は、安平町の震災復興の象徴であると同時に、「自分が「世界」と出会う場所」をテーマに掲げ、大人と子供をつなぐ地域の拠点であること、「教える」から「学ぶ」学校への転換を求められました。

私たち設計チームは、各々の専門性を最大限に活かし、数々の議論を通じてこのビジョンを具現化するために努力しました。しかし最も重要だったのは、教育委員会の皆様をはじめ、児童生徒、地域住民、そして先生たちが絶え間なく学校について考え、我々設計チームと対話を通じて協力してくださったことです。また、複雑な工事にもかかわらず、辛抱強く高い技術力をもって施工して下さった施工者の方々の協力あってこそその成果だと実感しております。「赤レンガ建築賞」を皆様と受賞でき大変嬉しく思います。これから益々この学園が子供たち、地域住民の皆様の手で発展していくことを願っております。

### 施工者 代表者 丸彦渡辺建設(株) 作業所長 小川 泰明

この度は歴史と名誉ある北海道赤レンガ建築賞をいただき誠に光栄に存じます。このプロジェクトは安平町の皆様の思いや希望を基本計画・建築設計・ICT環境設計で集結し、様々な分野の第一線で活躍する設計者の皆様が創造性豊かに設計された建物であり、施工者として当プロジェクトに携わらせていただいたことは誇りであるとともに全力で取り組ませていただきました。

建物はRC造、木造、鉄骨と多様な構造であり、それぞれが絡み合う施工を円滑に進められたことは協力会社の皆様、建築・電気・機械がお互いに協力・連携しながら尽力した結果であり、このような素晴らしい賞を受賞できたことは今後の励みになります。

この学校のテーマに「自分が「世界」と出会う場所」とありますが、私たち施工者にとりましても安平町の皆様や設計者の皆様と出会った素晴らしい場所であり、施工者を代表して関係者の皆様に関心から感謝を申し上げ、これからの地域の発展に寄与し、豊かな社会づくりに貢献させていただきたく所存でございます。

## 令和5年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

# 東川ひとやすみサイト TOMOS [雪洞+andon]

■建築主 (株)湧駒荘  
■設計者 トピカ  
■施工者 (株)ノースクリエイト (株)ウッドワーク  
アートクラフト・パウ工房 木と暮らしの工房  
(株)大雪木工 (有)樹工房

■建築物の概要  
所在地 上川郡東川町東町3丁目2番16号  
主要用途 飲食店(A)+宿泊施設(B)  
構造及び階数 木造1階(A)+木造2階(B)  
建築面積 169.94㎡(A)+115.93㎡(B)  
延べ面積 169.55㎡(A)+211.98㎡(B)  
竣工年月日 令和4年11月1日



### □企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

東川は言わずと知れた、家具の街である。優れた家具を全国に供給しており、「家具」は街の中心的な文化要素として、街づくりの一端を大きく担っている。その家具の街に「東川の家具」を全身で体験できる場として、「飲食店」「宿泊施設」「中庭」をもつ複合施設をつくることとなった。このプロジェクトは民間のプロジェクトとして、企画段階から、東川家具を愛する「施主、設計者、地元の家具工房」が協力して作り上げた「東川家具の結晶のようなプロジェクト」である。建物内の置家具はもちろん、造作、空間デザインまで、施主と設計者、東川の家具工房が積極的に協力して設計デザインを行っている。企画から設計、製作、施工、利用期間、修繕まで通した「建物のライフサイクル」が地域文化を礎にしてつくられるという、地域貢献を背景にした民間のプロジェクトである。

### □設計の特徴

敷地は東川中心部の辺縁に位置する住宅街である。鉄工所の跡地であり、この場所に、東川家具をテーマとして本施設を計画することとなった。全体計画は、住宅街のスケールを乱さぬように分棟型の配置とし、飲食店、コンドミニアム、中庭を持つ計画とした。飲食店は地元の方が気軽に集える場として、宿泊施設は東川での滞在時間を東川家具の中で過ごすことが出来る部屋として、中庭は地域に開放されたワークショップの場として活用できるように計画されている。それぞれの建物は造作から造作家具、置き家具に至るまで地元の家具会社のデザインを活かした計画となっており、一般の方が利用するなかにおいて、自然と東川家具の魅力を経験できるようにしてある。特徴的なのは、コンドミニアムの各室であるが、それぞれの各室は家具工房の名前を冠した部屋名となっており、各工房の特徴が表現された空間となっている。

### □施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

特別な工法をとらずに、一般的な在来木造工法で、魅力的に安価につくることを考えた。手段は一般的であるほど普遍的価値が高いと考えて設計と施工を行った。結果として、構造や外皮のコストを大きく軽減することにつながり、テーマである東川家具へのコスト配分を大きく確保し、プロジェクトの成功につながる要因のひとつとできた。一方の材料は、カラマツ、タモ、ナラ、杉、ニレ、白樺、鉄平石、札幌軟石、江別レンガなどの道産材を使う計画とし、それらの新たな可能性を追求した。これらには、製品として用意されていないものもあり、原木から手配になり、生産者との連携が必要なものもあった。従前の建設工事フローでは採用が難しい材料も、設計段階から、施主や家具会社が同じ方向を向くことで、使用が可能になるものがある。これは今回のプロジェクトから得られた貴重な経験であるし、今後の道産材の普及を視野に入れたときの大きな試金石になるものと思われる。

### □完成後の地域への貢献度等

2022年11月のオープン以来、飲食店：8,000人 宿泊施設：1,000人の方々が利用し、増加傾向です。東川を訪れる人、東川に暮らす人が実際に東川の家具を体験できる施設として、地域文化の発信に大きな役割を果たしていると考えています。また、中庭では、昨年、工房向けの工具イベントが行われ、今年は子供向けの木工イベントや子供食堂を行う予定も組まれており地域貢献の場として利用されています。一方でスケールが抑えられた道産材の外観や緑が多い中庭は、周辺環境への貢献も果たしていると自負しております。

# 令和5年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

## 株式会社ハルキ 事務所棟

■建築主 (株)ハルキ  
■設計者 高田傑建築都市研究室  
東京電機大学未来科学部建築学科笹谷研究室  
宮原一級建築士事務所  
■施工者 紀の國建設(株)

■建築物の概要  
所在地 茅部郡森町姫川11-13  
主要用途 事務所  
構造及び階数 木造(在来) 2階建  
建築面積 451.84㎡  
延べ面積 476.99㎡  
竣工年月日 令和5年2月28日



### □企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

「株式会社ハルキ」は道内で唯一、製材・集成材・プレカットの一貫した生産体制を持つ、木材加工会社です。創業当初から道産・町産木材にこだわる「地材地消」を企業理念とし、地域社会への貢献や「木育」等の木材普及活動にも積極的に取り組んでいます。同社が拠点を置く「森町」は、その名が示す通りカラマツ・トドマツ・スギの3樹種が豊富に生育する、北海道内でも稀有な森林資源豊かな地域です。

新社屋の建築にあたり、これまでと同様に地域経済への波及効果を最優先し、またLCAを考慮し長距離の輸送等の削減に配慮するなど、道産木材にて造られる中～大規模木造建築の「普及」に重点を置き、施工の容易な汎用性の高い構法とともに計画をしています。

### □設計の特徴

森町産の3樹種を適材適所に使用する設計です。トドマツ(上・下弦材)、スギ(束・斜材)で構成される「木造平行弦トラス」にて9.1mのスパンを支える大屋根を構成し、フレキシブルな無柱空間を実現しています。2階床梁の一部や、内部建具を支える独立した梁にはカラマツの高強度集成材を使用しています。道南地域はスギの北限としても知られ「道南スギ」の名で親しまれています。外部・内部の各所には、同社が製作する道南スギ製の仕上げ材を使用し、木のぬくもりをふんだんに感じることができる建築です。

社内の事務や営業、プレカットなどの各部署間は、平面を雁行させることにより適度に分節しながらも、全体としては吹き抜け等を介したワンルーム空間となっており、多様な働き方を担保する執務スペースと、部署間のコミュニケーションを誘発する垣根のない、包容力のあるオフィス環境を実現しています。

### □施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

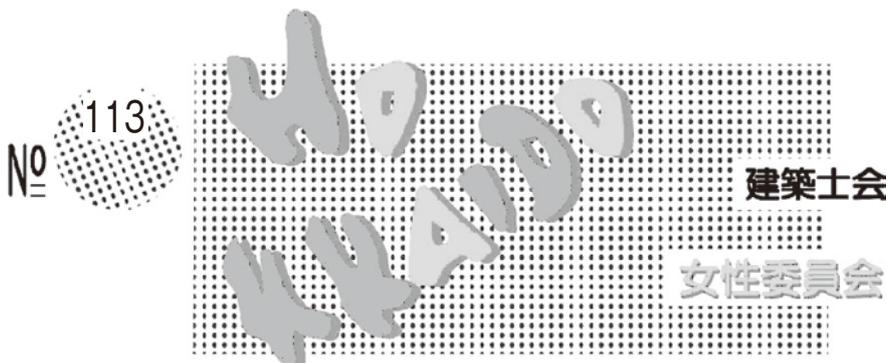
木造平行弦トラスの接合部には9mm厚の金物を用い、全箇所ドリフトピンにて接合する地元大工が容易に施工可能な工法としています。金物は実施図・施工図レベルでの徹底した打ち合わせにより、同社の木材加工技術と金物メーカーの正確な精度・品質管理により、施工誤差0.5mmという高い精度を実現しています。

各所の接合部も、プレカット部門や工場側との打ち合わせを重ね、全て自社加工可能な仕様としています。

### □完成後の地域への貢献度等

工事中も含め、竣工後も多くの企業や団体からの見学会を積極的に受け入れることで、非住宅木造建築の普及活動を推進しています。2階に配された多目的スペース「ユニウシカフェ」では、休日等に木育ワークショップやセミナーなどを定期的に開催する予定で、地域の公共的な場としての役割も担っていく計画です。

原木の生産から加工、最終製品化までを全て域内で完結し、建設コストの低減や地域経済の好循環に勤め、建築計画全行程における二酸化炭素発生量の大幅な削減を実現した計画として、ゼロカーボンシティを宣言する北海道や森町における、建築的な取り組みとして新たな普及型のモデルケースとなることを目指しています。



## 初めまして！

樋口 和代 (函館支部)

私は元々、TOTO函館ショールームのアドバイザーをしており、その後営業として札幌に異動し、5年前に函館に戻った際、全国大会が函館で開催のタイミングでもあり、少しでも何かお役に立つことがあればと思い、建築士会に入会しました。普段は水回りメーカーとして住宅に関わるお仕事をさせて頂いています。会社としては非住宅の関わりも多く、一年前に北広島市に開業したエスコフィールドHOKKAIDOの球場トイレを納入させて頂きました。球場トイレの要望は回転率を上げるというものでした。それに対し、手洗いと化粧直しの用途を分けることで人の流れをスムーズにし、回転率の良いトイレとなっております。ファイターズのファンに限らず楽しめる球場になっていますので、皆さんぜひ一度足を運んでみて下さい。



【球場の スポンサーロゴの前で】

建築士会の活動としては、今年度より北海道建築士会女性委員会に参加させていただくことになりました。令和6年第1回女性委員会が3月2日に札幌の事務局にて

対面で行われ、初参加する事ができました。皆さんあたたかく仲間に迎え入れてくださったのでとても嬉しく思いました。函館支部以外の活動の様子を聞くことができ、得るものが多く、函館支部に持ち帰り、より良い活動ができればと思います。



【素敵なお店での懇親会】

函館支部の女性委員会に平野建業の姉妹が在籍しており、平野建業の林業部では環境保全型の自伐罰型林業に力を入れています。その縁で昨年は木材からチェーンソーを使い木のコースター作りも行いました。函館支部の女性委員会も今年度は委員長が替わり新体制となりましたので、また新たな気持ちで、皆で楽しみながら活動していきたいと思ひます。



【昨年のコースター作り】

## 釧路支部女性委員会 懇親会

須藤志津子 (釧路支部)

釧路支部では2月22日に女性委員会の新年会を開催しました。4年ぶりの新年会開催の為、ゴージャスに「フランス料理検定」でディナーのコース料理を頂きました。平日の夜のため、参加者は6名となりました。

最初にシャンパンで乾杯し、美味しい料理を頂きながら、令和6年度の女性委員会の活動について話し合いを行いました。委員長は多田さおりさんに交代になりました。参加者は普段中々頂くことができない、地元の食材を使った芸術品のような美しい料理を堪能しました。

又現状の仕事についても話が弾み、楽しい夜を過ごしました。



【参加者で記念写真】



【美しい料理の数々】

## 千歳支部

## 今の千歳市

支部長

南雲 勇次



今回は千歳支部からの寄稿依頼があり、何を書こうか大変迷いましたが、やはり、千歳の話題となれば、全国的な話題となっている「次世代半導体製造ラピダス」の生産工場建設なのではないでしょうか。

昨年2月に3年間続いた、新型コロナウイルス感染対策も5月から5類に分類されるとなり、やっと対外的な活動ができると思った矢先の2月末に突如、千歳市内に工場建設との発表があり、それも国の全面的な支援により、数千億に留まらないと聞いており、面積も第1工場54,000㎡で札幌ドームと同規模の大きさと聞き驚きです。

この発表から一気に苫小牧市から札幌市、石狩市にかけての「北海道バレー」と呼ばれる、半導体景気が湧き上がっており、国内外から半導体関連企業からの立地問い合わせも多くあると千歳市では話しています。

現在、千歳市には工業系の団地として5か所ありますが、既に90%近くが埋まっており、今回のラピダスの進出により、関連企業立地を見込み、新たな工業団地の造成計画もあるとのこと。

千歳市は以前から空港の町として、北海道の空と陸の交通要衝として栄える一方、市街地の東、南、西に空陸自衛隊の基地と駐屯地が挟まれて、住宅や工業団地等の形成に制約を受けていましたが、新千歳空港が開港してからは周辺に多くのレンタカー業者や民間駐車場が立地し、又1998年には国内でも珍しい光科学技術を中心とした「千歳科学技術大学」が創設され、2019年には産・学・官一体となって多くの分野で活躍できる人材を生み出すため「公立千歳科学技術大学」となり、ラピダス誘致に際しても当大学があることが一誘因となっています。

また、ラピダスが設置されることにより多くの人材が求められており、市街地土地売買は以前より活発になっており、地価公示価格もラピダス効果でじわじわと上昇

しております。

ラピダス関連就業者の居住確保に向けた賃貸マンション等の建設がにわかに活況を呈しているものの、残念ながらこれらの建設に関しては市内業者の受注はあまりないようであります。

道内の建設業界は、札幌駅周辺再開発や新幹線延伸工事などにより、資材の品薄、高騰化が続いており、更に技術者も高齢化が進み慢性的な人材不足が拍車をかけております。

I T関連企業の募集には多くの人材が集まりますが、建設業関係は敬遠されることが多く、24年問題、労務費上昇により、建築需要があるにも関わらず、お受けできず先行きが非常に不安であります。

しかし、千歳市は若い自衛隊員が多く、全道一若い街と言われており、企業立地で更に人口も増え、活性化が期待されていることは大変喜ばしいことであり、支部会員一丸となり街の発展ための一翼を担うため頑張っておりますので、今後ご支援いただきますようお願いいたします。

## 日高支部

## 第46回全道大会(日高大会)開催に向けて

委員

津山 浩



皆様初めまして。日高支部の津山と申します。今現在支部で活発に議論されております、全道大会の開催に向けたお話を今回は紙面をお借りしまして、させていただきます。

大会テーマは『馬産地 日高路で語る我々の未来』に決定致しました。皆様もご存じの通り日高は軽種馬が盛んな地域であります。コロナ禍でどこにも行けない方が馬主に興味を持ち、大金を落としていただいたおかげで、セリでの売却金額も軒並み右上がりで日本全国の中でも、コロナ禍での売上増と類を見ない地域となっております。そのおかげか、たくさんの牧場が既舎の新築・改築または住宅の改修と我々建築士にも多少の影響がありましたことは言うまでもありません。

そしてこの日高での全道大会。こんなことをいうのもアレですが、景気のいい流れで開催を迎えることができるのを大変嬉しく

思っております。

会議は1か月に2回10名程度で行っており、今は各詳細を詰めております。

今後の全道大会の模範となるような大会、又地方でも対応できる大会を考えながら進めており、去年全道大会でPRしましたYouTubeにも力を入れ、日々日高や大会の情報を発信しております。私は、地元のスナック担当になりこれからはございますが、スナックの掘り起こしを行い、盤石なお出迎えができるよう日々飲み歩きたいと思っております。事務局長に、取材の経費を請求するかしらないかというところで、一番頭を悩めております(笑)。



会議の写真

冗談はさておき、分科会形式をなくし、ひだカフェスタイルで皆様方と意見交換・情報共有・親睦等をし、初めての試みですが参加される方々が支部に自分に持ち帰れるものがあるひだカフェにしていきたいと思っております。たくさんさんの全道の会員の皆様ご参加お待ちしております。

支部が盛り上がり、地域が盛り上がり、最後は北海道全体が盛り上がり、建築士会全体にいい波及効果がありますよう頑張りますので宜しくお願い致します。そして当日お手伝いいただく各実行委員会、道南ブロックの皆様、お忙しい中ではありますが、ご協力お願い致します。

最後にYouTubeのリンクを張っておきます。まだ見られてない方はぜひご視聴を。又チャンネル登録宜しくお願い致します。



## 道士会の動き

### 本部の主な会議報告（4月）

- ◆第2回BIM推進特別委員会（web）  
（開催日）2日（火）
  - 1）doBIM season8-1 運営担当
  - 2）各事業の進捗
  - 3）委員会内勉強会
- ◆第1回まちづくり委員会  
（開催日）6日（土）
  - 1）北海道まちづくり会議の進行確認
  - 2）まちづくりフォーラムin旭川の企画確定
  - 3）全道大会の企画検討
  - 4）まちづくり事例集
- ◆第1回女性委員会小委員会（web）  
（開催日）12日（金）
  - 1）集い
  - 2）住教育セミナー
  - 3）名刺
  - 4）委員による仕事・趣味 紹介
- ◆第1回事業委員会  
（開催日）13日（土）
  - 1）令和6年事業委員会 事業計画及び収支予算
  - 2）令和6年「特別活動費」助成事業
  - 3）改正宅地建物取引業法に対応した「既存住宅状況調査技術者講習」の開催
  - 4）建築士がマンションの未来を変える大規模修繕「修繕の心得」講習会の開催
  - 5）その他
- ◆第1回情報委員会  
（開催日）20日（土）
  - 1）会誌「北海道建築士」  
・8月以降の掲載記事を策定
  - 2）その他

### 本部の主な行事予定（5月）

- 14日（火） 第2回女性委員会小委員会（web）
- 17日（金） 第3回理事会
- 18日（土） 青年建築士の集い

### “会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



- 視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
- 5月パスワード：Hiy043

## 編集後記

あっという間にゴールデンウィークがきましたね。今年、話題のエスコンフィールドHOKKAIDOに足を運んでみたいと思い、チケット販売状況をチェックしてみたところ、なんと駐車場はすでに満車！近隣の駐車場もバスで30分程度かかり、子連れでの移動は大変そうだと感じ、とりあえず今回は見送りました。

札幌からJRで行くのも混雑が予想され、駐車場を確保してからチケットを購入の方が良さそうですね。建築物としての球場にも興味があり、子供と一緒に楽しめる場所だと聞いているので、今シーズン中にぜひ一度は観戦したいと思っています。

情報委員会 角張 隆昌（旭川支部）

## 講習会・セミナーのご案内（5月）

### 監理技術者講習

15日（水） 札幌市  
23日（木） 函館市

### 建築士定期講習

22日（水） 札幌市  
29日（水） 旭川市

### CPD認定プログラム（4月認定）

プログラム認定はありませんでした。

## 令和6年（一社）北海道建築士会会員作品の募集

### 応募対象

- ①対象建物 令和2年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。
- ②対象者 本会の正会員（応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限ります）
- ③応募作品 1人若しくは1グループで1点とします。

### 所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

### 応募締切

令和6年5月24日（金） 必着

### 応募資料

- ①申込書 所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。
- ②提出資料 図面（平面図・断面図・配置図等）及び完成写真（内・外装）等の画像データ3点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。（応募作品は返却しません）

### 作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し「北海道建築士No.325」に掲載します。  
※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。

## 令和7年特別活動費助成金申請受付はじまる

全道の統一事業のほかには支部等の事業に対して、人材・資金・情報などの支援を行うための「特別活動費」助成金を活用ください。

- 支部等が建築士会のPRや会員等の資質の向上のための新たな事業又は、地域住民との協働により活力あるまちづくりの一助を担う新たな事業等が対象となります。
- 対象事業：令和7年事業
- 申請期間：令和6年5月1日から7月31日

詳細は、所属支部または北海道建築士会本部（011-251-6076）までお問い合わせください。

情報委員会委員長／前田 繁  
副委員長／村山 賢司・立花智亜喜  
委員／岩浪 治郎・角張 隆昌  
津山 浩・奈良岡 修

### 北海道建築士 No.321号

印刷 令和6年4月／発行 令和6年5月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011) 251-6076番  
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011) 811-7151番